

5C20 回目キングダムセミナー20260808

【「神の像と神の似姿」で築き合う、人と人との関係性。】

【互いに赦し合い、包接によって現れる神の似姿。】

8月のキングダムセミナーを始めていきましょう。

賛美:

1、今日がその日

13、あなたの手で

17、変わらざる神

19、主よ、汝(な)が栄光が あらわれるとき

前半:0:15:11.08

さあ、主の思いとともに進めていきましょう。キングダムセミナー第5クール目の8月です。

今は、【王権による関係】の中の『人と人との関係性』というところを押さえています。本で言えば、94ページ以降ですね。前は、特に後半において《互いについての啓示を得る王権の行使》というテーマのところをやりました。そこを、深く、深くやっていますが、「ワンクールをいくつか聞いたから、もうそれで十全だ」ということでは決してなくて、特にこの5クール目は、今まで話してこなかった、その深いところを、細かいところまで話しています。ですから、5クール目から聞かれた方は、ちょっとびっくりかも知れませんが、どうぞ、ついてきてください。17:31.28

それで今日は、99ページ、『人と人との関係性』の中のテーマである《人を赦す王権の行使》というところ。今日は、ここを全部は、いけないかも知れませんが、ポイントを押さえて話していくので聞いてください。ね。

この第5クール目は、今までとはかなり違って、説明が深くなっています。それは、お分かりだと思いますけど、私達は、大切な原語であるヘブライ語から掘り起こして、味わってきているからです。ですから、「私たちは罪赦されたから、赦し合わないダメなのだよ」というように、単にそれで言い切れるものではないです。それで、このところをずっと、キングダムセミナーの初めから、『初めのボタン』を大切に話して来ている。ですから、創世紀の初めの天地創造のところをさっと過ぎてしまっているのは、勿体ない。このところが、どんなに今の我々の関係性に深く関係しているのかということを、どうぞ、知っていただきたいのです。19:30.69

ですから、創世紀の1章の26節と27節で『神の像と神の似姿に彼らを造ろう』と神様が決心されて、神の像をもって人を造ったというところを前回、プリントを配りましたが、持っていらない方は見てください。あるいは、ミルトスの対訳ヘブライ語や日本語の聖書を持っていらない方は、開いてみてください。でも、持っていなくても大丈夫ですよ。それから、「ヘブライ語なんて関心ないよ」と言う方も大いに結構です。でもちょっと、私が言っているところを実際に目に留めて、押さえていただければ、尚、わかってもらえると思うからなのです。

創世紀の1章の26節と27節で、『神の像と神の似姿に造ろう』と26節で神様が決心された。で、27節で実行された。でも、その実行された27節には、『神の似姿』は入っていない。似姿は、神の性質、神様の心の現れのすべては、創造されてから、ゆっくりと、熟してくる。成熟してくるものだという理解があったからなのです。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

すなわち、アダムとエヴァは『神の像』と『神の似姿』に造られた。でも、『神の像』はあったけど、『神の似姿』は完全ではなかったということ。この『完全ではなかった』と言うことに関して、前回の7月のキングダムセミナーの前半の部分で、集中的に取り上げて、説明しましたよね。

それから、神様は、一つ一つを見て 【良し、とされた】と書いてある・・・特に、最後 6 日目に（創世記 1：31）人が造られた時、【それは、神様が見て、【はなはだ良かった】】と言っている。22:18.12

これは、理科的に、科学的に「何の欠陥も欠点もなかったんだ。全て完成したんだ。よかった」というよりも、神様が人を見て、その『応答』としての『現れ』を『見た』。その『神様との関係性』が『良かった』ということ。神様は、ここから始められたということでした。22:54.08

これは、じっくり読んで理解するというよりも、我々は、自分に愛を持って語りかけてくれている神様の言葉を、聖書の神様の語りかけを、我々はしっかり味わう。その言葉でもって神様の心を味わう。そしてそれを飲み込む。そして応答すると。これが、私たちの『生きるという証』なんです。23:45.06

そして、2章の初めの（創世記 2：3）【すべての創造の仕事を休まれた。これからまた造るために】という『神様の決心』を見ました。じっくり語られた『語り口』、その『息遣い』を味わうと、今まで知らなかったことがいっぱい感じ取れるようになります。

それでは今日は、原文の 2 章の神様の創造の物語を見ていきましょう。1 章とは角度が違います。ある意味、もっと、人の近くいる、神様の「創造」が現れてきます。で、そこをちょっと見て、我々の『神の像』というものが、どんなに、その後、私たちが生きていく上で、あるいは、『神と人との関係性の中に』それがどう浸透していくものなのかという、そののところから見ていきたいと思います。

それで、先程 LINE グループの方に、私が写真を撮って送ったプリントがあるのですが、ちゃんと送れていますか？皆さん、見やすいように拡大してみて下さいね。どうでしょうか？見えますか？ややこしかったら、見ないで話だけ聞いてくださっても結構ですよ。もし、ミルトスの対訳の本を持っておられるなら、本を見てください。

プリントには、2章の初めの部分、7節 8節を拡大コピーしてあります。こちらの部屋の皆さんは、拡大したプリントで見やすいけど、ラインの画面で見るとはちょっと見にくいかと思います。すみません。そこに、四角で囲ってあるところが、今日注目のところですよ。よろしいですか？ 26:41.71

7節はこういうところです。【主なる神は土の塵で人を形造り、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きるものとなった】・・・ここで神様の言葉づかい、そして息遣い、そういうところが、どうなのか。パッと見ても分かりにくいかもしれませんが、・・・最近、自分で、ヘブライ語の対訳聖書を読んで学んでいるという方が多くなってきましたから、ちょっと目に慣れていらっしゃる方もいるかと思いますが、ちょっとここを見てください。

27:42.72

5C20 回目キングダムセミナー20260808

7 節の四角で囲ってある初めの言葉、[ヴァイツェル]、これは [形造った] という言葉です。ちょっと対訳聖書で慣れてきた人は、この 7 節の初めの言葉で、「え？」と、ちょっと止まるでしょう。[神様は造った]、[創造した] という言葉は、普通、[パーラー] という言葉を使います。ところが、ここは、[イツェル] という言葉になっている。神様は気まぐれで、[パーラー] を使ったり、[アッサー] を使ったり、[イツェル] を使ったりしていない。言葉を受け取る私たちは、「ここは、パーラーでもアッサーでもないと言っている」というところで、ちょっと止まってしまう。

なぜならば、この[形造る] という意味合いを持つ言葉は[造る] はもちろんそうなのだけど、[イツェル] は、陶器士、あるいは彫刻家が、コツコツ、コツコツ考えながら工夫して対象を造る という意味合いを強くしているわけです。

ですから、神様は人を造ったとき、土の塵から造ったのだけど・・・[形を造る] とは、どのように造ったらよいか、どれがベストか、どのような人であつたらいいのか、というのを最高の技術とステータスをもって、人を造られました。そこに、強調点があるんです。決してポイポイと投げるように造ったのではないということです。30:38.14

そして、[土の塵から人を形造った]と言って、7 節の 3 段目の四角の中をみて下さい。[そして、吹き込んだ]。何を？[彼の鼻の中に。息吹を]。つまり、『命の息吹』を、吹き込んだと言っているわけです。・・・ここなのです。神様がどんなに丁寧に、どんなに真剣に、親しみを持って造っているかという一言、一言を我々は受け取っていくのです。31:44.45

1 章 27 節の時に、[神は人をご自分の像に創造された。神の像に、彼を創造された。彼らを男と女に創造された]だったでしょ。この 27 節は、[人を造った]ということを強調したい。この一節の中に、[創造された]という言葉が3 回使われ、繰り返されているところから、分かります。この三重の反復というのが、すごい強調表現なのです。32:30.60

人間という存在が、神にとってどれほど特別で、『神の像』という、侵すことのできない尊厳を刻まれた存在であるかを、強く主張している書き方なんです。サラッと読んだだけなら、そのままですけど、どうぞ、一言、一言、ゆっくり読んでいきましょうよ。

それで、今読んだ 2 章 7 節ですけど、[そして、吹き込んだ。彼の鼻の中に 命の息吹を]という、ここを皆さん、どう思いましたか？どういうふう読んで、どう感じて受け取ってこられましたか？7 節の四角囲っているところの 3 段目のところですよ。私が薄く丸をつけているのがわかりますか？「ここを見てよ」と、いうつもりで丸をつけました。「見て、見て」と。「ここよ、ここよ」というつもりで。33:57.30

「吹き込んだ」というところは、まあ、これはそのままとして、[彼の鼻の中に]・・・[土から造った人の鼻の中に、命の息を吹き込んだ]と、いうこの表現どうですか？で、ここ、[息吹]と書いてある。[息]とも訳してある聖書が多いよね。命の息。これ息吹、息とか、呼吸とか、あるいは霊とも取られるわけよ。だから、『神の霊』を、ここに神様が注ぎ込んだんだと受け取ることができる。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

ところが、ヘブライ語をやっている人、『**霊**』って、なんという言葉ですか？知っていますよね。一般的に聖書に出てくる**【霊】**というのは、**【ルーアッハ】**と呼ばれる。それが一般的。**【水の上を神の霊が動き回っていた】**と、創世記1章2節、1日目を書いてある。ところが、ここで、その**【ルーアッハ】**を使ってないのです。ここ、**【命の】**ことを**【ニシュマツト】**と書いてあるのです。36：04.52

【ルーアッハ】といえば、神様ご自身の存在。霊。神様の命。そういう全般的な大きなくりですけど、この**【ニシュマツト】**、**【ニシャマー】**というのは、“全般的な大きな括り”という意味よりも、なんというか、**個性的な息**。もっと、その人と私との個人的な“パーソナルな呼吸”というか“**息**”のことなのです。

だから、我々でも、「今日、あなたと呼吸、あっていたよね」って、そんな言い方するじゃないですか。一緒に演奏したり、一緒にプレイをする時に、「息を合わせていこうね」とか、「今日のあなた達、息がピッタリ合っていたよね」とかいう、その**【息】**が、どちらかと言えば、この**【ニシャマー】**なのです。

だから**【ルーアッハ】**よりも、**【息】**とか、**【呼吸】****【息遣い】**というよりも、より限定的、より親密・個別的な息、呼吸を指します。そうするとどうですか？

【神様は、吹き込んだ】というその個別な、親密な、“あなたに”という限定的な、いわば“アダムへのプライバシーを守って”と言ってもいいかもしれない。**神をご自身の内にある最も核心的な、神様の親密な、限定的な息を、パートナーである相手に直接、与えられたということ。**38:59.64

だからさっき、皆さんに、なぜ**【鼻】**なんですか？ということを書きましたけど、ここを、どう思いますか？**【ニシャマー】**が、**限定的個人的プライベートな【息】**だとすれば、そうしたら、わかるでしょ。神が人の顔に、ご自身の顔を近づけないと、これは不可能な動作ですよ。**わざわざ【鼻】**にということの表現。神様とアダムのこの両者の距離はゼロです。アダムの顔に近づけ、鼻に近づけ、鼻と鼻をくっつけて・・・まさに、今生まれてきた赤ん坊の顔に「よく出てきたよね」「生まれてきたよね」と、親が頬ずりしますよね。で、顔を近づけて喜びますよね。そういう、もう**濃密なスキンシップ**なんです。40:44.21

神様の内にある息、呼吸が、人の中に流れ込んだ。そうしたら、**人が最初に吸い込んだ息は神様の息です。そして人が最初に吐いた息は、神様への息です。**このように、**神と人との応答から始まったん**です。これを単にスラッと読んで、理科的に読み過ごしてきませんでしたか？「へえ～、あ、そうなんだ」と言って、パッパッパッと私たちは紙芝居をめくるように、絵本を捲るように、この情景を見過ごしてきたかもしれない。41:54.78

だから、**【人が、生きたものとなった】瞬間**というのは、神からの口移しとは言わないけど、いわば、“鼻移し”の**【息継ぎ】**なのです。で、**神様に向かって初めて息を吐き返した瞬間、相互内在の【応答の関係性】**というのを、原文は、脈々と、しっかり伝えているのです。42:31.26

だから単に、土でできた人を神が形造って、霊と魂というパーツを、神様が遠くから、“ぶッと”理科的に、注ぎ込んだという、そんなのじゃあないです。**絶えざる呼吸のやり取りという、思いや考えの対話と、応答ができるパートナーが【汝】**なんです。“あなた”なのです。43:14.54

5C20 回目キングダムセミナー20260808

それから、[(彼の鼻の中に) ベアバヴ]というところと、[(命の息吹を) ニシュマツト ハイーム]というところにも、同じように丸がついているでしょ。この[ハイーム]と言うのは、[命の]という意味なのですが、その単語の下に文法用語が、略語で書いてあるのだけど、・・・そこに、男(性形)と書いてありますよね。(これは、男性形、女性形がありますからね。)で、その横に、"複(数形)"と書いてあるでしょ。[命]というのは単数形でも書けるんです。『神様の命』なんですから、一つですからね。そうでしょ。だったら、なぜ、ここ、複数形になっているのでしょうか？ ちょっと考えてみてください。

[(神様の) 命を人に渡した]というここは、それだけを言っているのではなくて、もっと広がりと深みがあるニュアンスがあるのです。じゃあ、何か。この命で、単に土でできた肉体が[生きる]という、そういう理科的なものだけではなくて、数々の『複数の命』との『共生』。共に生きるという、『数々の命との関係性』を含んでいます。

45:53.82

単に、神に造られたポツンとした単独の『生きる命』を指しません。聖書ヘブライ語の感覚では、孤独な生命を『命』とは呼ばない。聖書ヘブライ語の感覚では、命の根源、存在、根底である神との応答関係、それは無数の関係に広がっていくのだ。無数の関係を包み込んでいるのだということ。あなたに与えられた『神の命』が、『神の像』が、単独でポツンと 1 個だけの「はい、神の像です。」ということではありません。あなたの内にある『神の像』、『神の命』があるとすれば、それは『複数表現がふさわしい』のです。

父と子と御霊の三位一体の『一つの主』が[我々は]と言われたのですよね。『父とあなた』と『御子とあなた』『聖霊とあなた』、それだけでも、とても単独で表現できるものではないけど、同時に、『神の像』である私たちが生きているわけでしょ。そうすると、『神の像である私たち』も、父と子と御霊の『親しさ』と『共有性』と一つであること。そして『固有な命で交わる』こと。それを私たちも自分のいる場所で、築いてゆくのです。

あなたが置かれたその場所で、あなたの内なる『神の像』は、聖霊の助けを得て、その『関係性という命』を生み出していくんです。だから、[ニシュマツトハイーム (命の息吹を)]という言葉は、複数系でしっかり言われているのです。

神と、生き生きとした『我と汝』の関係を続ける『呼吸』のことなんです。49:29.22

じゃあ、どうですか。『呼吸』って、私達、しない時って、ないじゃないですか。深呼吸する時はあったとしても、「特別に呼吸します」ってこと、ないでしょ。だから、神様と向き合う。御子と向き合っている。聖霊と共に歩んでいるという関係性は、我々の、あなたの『呼吸』ですよということ。

だから意識して、「はいこの時間からこの時間まで、はい礼拝。この時間からこの時間までは、祈り。はいあとは私、仕事。」という、見た目の作業はそうになっていたとしても、私達が「神と向き合い、共に歩もう」と言ったら、そんなのどこで区切るのですか。我々が意識してもしなくても、私たちの命はいつも『呼吸』をしていますよねえ。

50:54.78

どうですか？非常にセンシティブな大切なところを、今話しています。どうぞここを吸収し、理解しましょうよ。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

だから、アダムの失敗によって、いわゆる“罪”によって、この息が途絶えたり浅くなったとしても、神が人に注いだこの『親密な吐息』『呼吸』、神様が注いだ『息』、神様の『思い』『応答への期待』は、私達から消えません。

神様が『神の像』を与えた“人”なのです。神様が諦めておられないからこそ、人は、我々は、神の呼びかけに再び呼吸を合わせることができるわけです。そして、向き直れるわけ。しっかりと、もういつでも即、やり直せるわけ。それが、『向き直り』ということ。『悔い改め』というのは、そういうことです。52:40.80

『神と人との関係の原点』がこのように、創世紀の 1 章 2 章の創造の時に、しっかり描かれています。だから、さっき「罪によって」とか「途絶えたり」と言いましたが、それは、人間の方で完全に閉ざしていると言った方が正確かもしれない。二人が罪を犯した。失敗を犯して、恥ずかしくなったのでしょ。その前は、二人は裸であったが恥ずかしがりはしなかったと、創世紀 2 章 25 節にわざわざ書いてある。だけど、彼らが蛇にそそのかされて、木の実を取って食べたとき、彼らは自分が恥ずかしくなった。これ、どういうこと？このリアリティを感じていますか？54：11.53

神様は、二人は裸であったが恥ずかしいとは思わなかった。でも、彼らが裸であることが恥ずかしくなって隠れた時、神様はどうしましたか？これは、3 章 8 節の話。神様は、歩き回っている神の声（音）を聞いた。神様は、散歩しているのですか？なんて、のんきな話じゃなくて、歩き回るというこの言い方が、独特なんです。これを日本語に訳したら、ストンと、そのままだけど、この歩き回っているという言葉の意味合いに、注意が必要なのです。

これは、「歩かされた」とか、「いやいや歩いた」とかそういう意味合いやニュアンスの『歩き回り』じゃないということを、知っておいてください。これはね、どちらかと言えば、自分から進んで、自分から親しく、どちらかと言えば、『交流を楽しみにしながら』歩き回るという、そういう意味合いの動詞なのです。ニュアンスなのです。

だから、単に「歩き回った」というよりも、・・・まあ、訳せばそうなんだけど・・・、人は神様を避けて、裸で恥ずかしいから、怖いから神の目を避けて木の間に隠れたのだけど、この表現には、神様の方から、『共に歩む関係』を求め続けている神様の抑えきれない心が現れているのです。

で、神様は何と言うのですか？『あなたはどこにいるのか』（創世紀 3；9）と、聞かれるのですよね。この言葉は、神様が本当にアダムのいる場所がわからなくて聞いたんですか？そうじゃないよね。神様ともあろうお方が、葉っぱの陰に隠れようが、井戸に隠れようが、わかりますよ。だから『どこにいるのか』という言葉は、「今、あなたの心はどこにあるのか」「あなたの呼吸は、これまでの私とあなたの息遣いではないではないか。」という、関係が浅くなった人間を探し求める愛と悲しみの問いかけですよ。57:53.76

神様は、人を造って、人が裸であったということを恥ずかしがりしなかった。神様は気にしていない。で、『あなたが裸であることを、誰が教えたのか』（3:11）と言っているわけよ。それを教える者がいなかったら、問題なかったわけでしょ。そんなことを教える者に耳を傾けなかったら、問題なかったでしょう。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

誰が一体教えたのだと。で、男の方は「あなたが私と共にいるようにして下さったこの女が、・・・」と。女は「蛇が私を騙した・・・」と。

まだ未熟でも、まだ完成していなくても、欠けがいっぱいあるのだとしても、恥ずかしくない。それは、なぜか？これから成熟に向かって、進んでいけるからです。これからたつぷりと、成長に向かって一緒に進んでいけるからです。それを『恥じ』とは言わない。 59:34.98

だから 1 章 2 章のところを過ぎて、あの失敗の後、3 章であっても、聖書は、『罪』という言葉を使っていません。 神様は、この彼らの失敗を、決定的な『もうお別れの事件』だというふうに見ている流れですか？違いますよね。その後も、アダムとエヴァと蛇の三者に、神様は、お語りになるのです。1:00:15.78

そこを、初めの頃話したかも知れませんが、蛇と女と男に言ったのは（3：14～19）、神様の心から出るこれからの『希望』であり『期待』ですよ。でも、そこを今日、詳しくやっていたら、それで 一日全部終わってしまいますから、そこを、もう一度聞きたいという人はどうぞ、後で過去の録音を聞いてください。1:00:57.18

裸であったけど、神様は動物の皮で彼ら(の肌)に合う衣を作って着せたわけですよ。(3:21) だから、我々が未熟であること、我々の中に肉があることを・・・神様が確かに言われた。『幼い頃から心に悪がある』（創世記 6:5）と。また、私たちは、醜いところがある。卑怯なところがある。見栄がある。で、それによって、ごまかし偽り、様々な失敗をするのではありませんか。1:01:49.32

はい、今日の後半は、ここのところをもっと突っ込みますけれど、ここだけでストンとくることはないので。自分の過ち、人の過ち、人の醜さ、人の失敗、人の行為で自分が傷つけられた、嫌な思いがした。そんなことは、我々の日常に、いっぱいあるじゃないですか。この世界中に渦まいているではないですか。1:02:36.42

聖書があなた方に『赦し合いなさい』という、その根拠、根源は、ここにあるんです。『神の像』と『神の似姿』を与えられているけれど、その『似姿』は、まだ互いに成熟し合っていない。未熟な者同士です。
それを『恥として隠れる』というその“心境”が、『赦さない』ということです。もう自分で自分を赦せない。我慢できない。だから人も赦せない。我慢できない。その現実、イライラする。でも、我々が造られたその情景はどうなんですか？今までたどってきたところで、読めてくと思います。1:04:13.56

我々が、「木の間に隠れよう。」「恥ずかしい。」「こんな自分はダメだ。」「だから、あの人も私と同じだ。」という気になってくる。でも皆さん、これって、いわゆる主の言葉に今、耳を傾けているクリスチャン同士の話じゃないですよ。クリスチャンであってもなくても、です。ただ、今、耳を傾けている私たちは、もう主の前に振り返って、そのことを認めて、自分の中で消化し始めているのではないですか？でも、そこまでもいっていない人は、いっぱいいるよね。我々の周りにも。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

神様は、この世の人全てを、『神の像』と『神の似姿』に造っているけれど、まだその『似姿』は、未熟な者同士だという、この目線で、出会おうとしているのです。

神様が鼻と鼻とをくっつけて、そんな親密な息遣いで、息をくれたように、私たちも、私たち同士、私たちの周りの人に、その親密さと命の息遣いで在ることができるでしょ。神様はそれができるように、神の像と似姿を添えてくださる。そこで、さっきのヘブライ語の原文のところを、もうちょっと見てください。1:06:25.68

2章8節にいくと、[そして、主なる神は、東の方にエデンの園を設け、神が形造った人をそこに置かれた。]という文になっています。ここを細かくやっていると、時間がいくらあっても足りないのですが、重要なところは、この丸をつけているところを見てください。「ここを見てね」という思いで、丸をつけています。1:07:14.40

この[ミケデム(東の方に)]と、という言葉です。単に「方角を言っているのだな」と、見てしまいますけど、なんで東なの？なんで東でないといけないの？と、思いませんか？少なくとも方向は、四方向あるではありませんか、ねえ。

神様の語りで、『東』と出てくると、「ううん？」と、ちょっと間を置いてしまいます。もうお分かりの方も多いと思います。後々、聖書をずーっと読んでいった人は、『東』って、「は一ん」というところがある。聖書ヘブライ語の中では、『東』というのは、『前方』なんです。『前』なんです。

たとえば、エジプトから出てカナンまで行く。移動する。あの40年間の移動の間、『幕屋』というものを作って移動しながら、『幕屋』を建てながら行きました。その幕屋に『神の臨在』があった。その幕屋は、いつも東向きに設置した。後にソロモンが神殿を建てた時も、神殿の前は、東を向いていました。1:09:12.84

東というのは、太陽が昇ってくる方向、一番明るくなっていく、なり始める方向。東に立つということは、神の前に立ち、神の前に行く。神と共にあるという大いなる方向であり、象徴でした。神の前、前方、そして神の歩きゆく方向。「神様がこれから造りゆく先に向かって、その位置にあなたは歩め。」「その位置にあなたはいなさい」という・・・『エデンの園の東に送り出した』(3:23)というのはそういう意味です。

神の楽しみ、神のワクワク。神がこれから人と一緒にパートナーとして、『ラアソート』、造っていく、その方向なんです。1:10:50.46

だから、3章の終わりに、失敗した彼らが園を出される時のことを、『エデンの園の物語』として、一般的に現代人が語る時、最後に「こうこう、カクカクしかじか。こういう罪のゆえに、アダムとエヴァは園から追い出されました」と、言いますよ。はい、確かに追い出されたけど、そこには、単なる絵本や紙芝居で見ている人と、神様の息遣いのこもったこの語りかけを、「私、聞きたい」と言って、じっくり耳を側立てて聞く人との差が、そこにあるんです。1:11:55.08

5C20 回目キングダムセミナー20260808

3章の24節には、確かに「追い出す」という言葉を使っています。ところが、その前の節、3章23節、ヘブライ語では、「送り出す」「遣わす」という、意味の違うことばで言っているのです。なんと、神様はこの息遣いに細やかなことでしょうか。初めに、神は人を[送り出された][遣わされた]と。どこに？[エデンの東に]。もっと東にです。

つまり、「送り出す」、「遣わす」というのは、ある『役割』『使命』を持たせて、「送り出す」のでしょ。それは・・・2章15節に「耕し、守るように」と。使命付きで書いてある。

一方、24節では、たしかに「追い出した」と言っている。なんで「追い出す」のですか？それは、サタンの配下になり、仲良しになってしまった、つながりを持っていたがゆえに、残っている『いのちの木の実』まで、サタンに取られることがないために、です。神様が、「いのちの木の実」をサタンにやることは、神様の命を、サタンに分け与えることになる。それはできない。それよりもむしろ、人の末、女の末によって、もう一度、初めのアダムができなかったことを成し遂げて、しっかりと、蛇の頭を足のかかとで踏み碎けるようになってから、この命の木は、もっと解放されるでしょう。1:14:53.76

だから、「追い出された」と言うよりも、もっと、東の方に「送り出された」というニュアンス。つまり、神様は、アダムとエヴァの失敗を自分の失敗として、親しい息遣いで、もう受け取ってくれているのです。そして、あなたの方の問題も、私の問題でもあるから、これから一緒に女の末を持つのではないかと。女の末を受け取れるように、準備をしようではないかと。だから、東の方に行って、私がこれから造りゆく回復のため、そして完成のために、あなた方は、パイロット役として先に行きなさいと。神様の前を歩くという『使命』と『特権』とを、こんな失敗しやすい、まだ成熟していない者に対して、神様は『期待』してくださっているのです。1:06:08.83

それゆえに、イエス様は全てを完成されたのです。イエス様の完成によって、私たちが身近なイエス様に向き合うとき、聖霊が我々の内に来て、御霊が我々の側にまで来て、働いて、それを成し遂げてくれるのです。1:16:43.14

だから、我々同士が『神の像』と『神の似姿』を放ちながら、我々同士が互いに、恥ずかしいだの、好きだの嫌いだのと、言っていられない。同じ神の国の中で、我々は互いにあなたがどういう人かということを知り始める。

あなたの個性って何？「あなたは神の国の中でこういうことね」という栄光の神の親しみの『相手の姿』を私たちは喜び合えるわけ。だから赦さないとか、憎むとか、汚すとか・・・これは、この息遣いの中では、持てませんよということです。憎んではいけないとかじゃなくて、憎めませんよ。『赦す』ということの深みが、原型の根っこに在るので。1:18:37.53

では、休憩して後半では、赦し合うというところを、今度、新約聖書の中を開きながら、見ていきたいと思います。では、しばらく休憩します。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

後半 1:32:45.21

後半は、人と人との関係性の『人を赦す王権の行使』、人を赦す『神の像』と『神の似姿』。これ、どうですか？

その原動力は、もうあなたの中にあるんですよ。神の息吹と一緒に、我々の中にあるんですよ。それを認めて、歓迎して、解き放つかどうかです。

前半は、旧約聖書の創世紀の初めから見て、神の像と神の似姿のこと。神の息吹、呼吸を、鼻の前に近づいて、その親しみの仲で、鼻の中に注ぎ込んでくれたという、この臨場感について話しましたよね。で、さっき休憩時間に、I コリントの手紙 13:12 にある[顔と顔を合わせて]というところを開いて話題になりました。新約でも旧約でも、聖書全巻を通じて、鼻の中に神の命、複数の息吹、その『命』を、我々に渡して下さったのだということを受け取る、歓迎すること。それを「そうなんですね」と思う、今日が『その日』なのです。そして、エデンの園の東に、使命を持たせて[神が送り出した]という私たちは、悠々神様の心と一緒に、神の前に、水先案内人のごとく前進していけるのです。ごめんなさい。後半から新約に移ると言いましたが、旧約の話をもう少し補足させて下さい。

で、その後に 4 章に入ったら、『カインとアベルの物語』が出てきます。で、そこでも一悶着がありました。でも、すねて嫉妬して「アベルが赦せない」「神様なんて」と、早速、その課題でしょ。

でも神様は、すねて顔を伏せているカインに、[・・・罪はあなたを戸口で待ち伏せしているよ。](4:7)という言い方をなさるのです。「あなたは罪人だからね」と言わなかった。[罪はあなたの戸口にある。あなたは、それを治める]と言っているんです。あなたの父と母は罪によって墮落したから、「あなたはもうダメだ」と宣言してはいない。なぜならば、彼のうちにはまだ『神の像』があるからです。

でもその後になって、『ノアの箱舟の洪水』がありましたよね。その直後、神様は、(ノアに言ったのではなくて)ご自分の心の中で言った。[人が心に思うことは、幼いときから罪深いものである。](創世記 8:21)と。人の弱さを認めていらっしゃる。それを認めながらもですよ。

それから、神様の語りはノアの箱舟の洪水の後長く続いて、今度、9 章の 6 節にいったら、『あなたがたは、人の血を流してはならない。なぜならば、人は神の像に造られているからだ』と言っている。いわゆる失敗、墮落後の人に対してですよ。

つまり、墮落後であっても、人の中にある『神の像』は消滅しておらず、神がそれを今なお絶対的に価値あるものとして尊重していることが明白なんです。そうでなかったら、神様は女の末を迎えるために準備する民族に、細かな 613 の律法なんて与えませんよ。

彼らの『神の像』を信頼していなかったら、期待していなかったら、人に、ご自身の息を、個別に親しく、鼻の穴に近づいて、吹き渡されなかった。・・・そして、失敗のその後も、『神の像』を大切に思われ、今度は『回復』と『完成』のために、共に歩み続けようと、[見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます](マタイ 28:20)と言われたのです。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

だから聖書の創世記の天地創造から新約の最後まで、神様は本当に変わらざる神。昔も今も永遠に主の心は変わりません。神様は、その呼吸で語られた一語一語を通して、人間に渡した『神の像』があるゆえに、一人ひとりの人の大切さを明確にしているし、神様ご自身の深い思い、情熱、意思を語っているのです。
私たちは、自分に対して、このことを自覚しているかどうかなんです。

『神の像』と『神の似姿』のことをセミナー本では、『王権』と言っていますけど、これを聖書の一語一語の中から呼吸して、吸い込んで、自分のものとして、そしてまた吐き出して、応答していく。今、あなたは、この呼吸の日々ですか？どうですか？どっちですか？それが問われています。あなたの心に、『明日になったら』とは言わず、『『今日がその日』と語れ』ということなんです。

神様との身近な呼吸の応答の現実の中にあるから、それで、我々が互いに分かり続けていく。神様と私たちとの相互認識が深まっていくのです。「あなたは誰？」「あなたはどんな方？」「あなたは感じる方なの？」と・・・
神様の心、性質、知識、意志を知るようになる。肌身で感じるようになり、私たちは『神の似姿』を表していくようになるのです。そして、互いの特徴ある姿を知るようになるのです。

でも、今は完成じゃないですよ。未だ未成熟なところを自分にも、隣にいる人、前にいる人にも認め合い、「私たちはこれだから恥ずかしいよね。ダメだよ」じゃなくて、『私たちはこれだから、これから完成に向かっていくんだよ』『今日のこの状態から私は出発するんだよ』と、『今日、私とあなたは、成熟に向けて、呼吸を、息を合わせながら進むことができる。』

『**包接する**』という言葉を知っていますか？包むという言葉と摂するという言葉を合わせていうのです。だから、『**赦す**』という王権は、神との圧倒的な親しい呼吸の中で、相手を包み込んでいく。『**赦す**』ということは、『**包接する**』ということです。神の国の中に相手を、自分の家族を包接する。クリスチャンであるかないかということは、関係ない。クリスチャンであってもなくても、神に造られて、『今ここに存在している人のありのままの状態を包接していける。それが、『神の命を得た人たちの姿』です。』

神の御国の中でその人を認める。その人をしっかり認知する。で、自分のできる範囲で、その人に向き合い、その人の呼吸に合わせていく。そういうことが言えます。

はい、後半、“ちょっと”と言いながら、少し入り込んで話してしまいました。

では、本を開いてみてください。キムダムセミナーの本の 99 ページ。《人を赦す王権の行使》のところ。ここは、大切なところなんですけど、何ページかにわたってしまっているの、今日は全部読んで詳しくということは、この時間、もう無理かもしれませんが、前半から今まで聞いてくださったことを消化吸収して、どうぞ 99 ページから読んでいっててください。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

ここに書かれていることは、今日の前半から聞いてくださったことをもとにすれば、ただ初めて本を読むよりも、うんと消化されてくると思います。少し新約聖書の言葉も取り挙げておりますから。ちょっと 99 ページから。少し読んでみますね。本がない人は耳を傾けてください。

《人を赦す王権の行使》

互いに赦し合うことの重要性について、聞いたことのない人はいないと思います。それは、「人を赦さないと、神もあなたを赦さず、祝福を失い、肉体も病に冒されますよ。」といった『神と人の関係』についてでした。しかし、『赦し』についての御言葉によりますと、「赦す」という心の行為は、ただ神と人の『関係』にとどまらず、人と人の間に『神の力を解き放つ』ための重要な鍵であることが分かります。

ヨハネ 20 章 22-23 節がその一つです。[彼らに息を吹きかけて言われた聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。]

・・・ここを初めてあなたが読んだ時、びっくりしませんでしたか？聖霊を受けるということが、だれかの罪を赦すものになる。聖霊を受けることと、人の罪の赦しと何の関係があるのでしょうか？ここにクエスチョンマークをつけた人もいるかも知れませんね。

でも、今日の前半からの創世記の話をしっかり受け止めれば、聖霊を受けるということが、そこに及んでいくことは明確なんです。なぜならば、私たちは『神の像』を分け与えられ、神に送られ、ここにいるわけですから。私たちが赦さずして、だれが赦すことができるんですか？そうでしょう。その下の段を読みますね。

この「だれかの罪」は複数ですから、だれかの「罪々」ということで、単に『サタンの支配』を指すものではなく、人の犯す個々の罪を指しているものです。そして驚くべきことに、このみことばは、罪を赦すべきかは神に代わって、聖霊を受けた人間に罪を赦す力があることを啓示しています。人間にサタンを縛る権威があることは周知のことですが、人の罪を赦す権威については、あまり語られず、まして“行使される”こともありませんでした。

しかし、このみことばを初めとして、聖書には『天の御国の鍵の一つ』として、『サタンを『縛る代理権』と、ともに人を『赦す代理権』が語られているのです。

続いて、ヤコブ 5 章 14 節から 16 節を読みます。[あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働く、大きな力があります。]・・・こうやって我々は、義人の集団になりましょう。大いに我々の間に回復される王権で愛し包みましょう。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

で、その 100 ページの一番下の太字、Ⅱコリント 2 章 10 節[もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです]と。パウロが言っていることがわかってきますよね。

私とあなたと主。この集合人格は相互内在です。その思いで、人を認める。人を包接するのです。赦して包み込んでいくことができる。

その下のところ(101 ページ)から。

「キリストの御前で」のところは正確には御前ではなくて、[év エン(中で)]ですから、パウロは「自分の赦しがキリストの赦しである」と語っています。・・・キリストと相互内在して一つとなって、私の赦しはあなたに解き放たれています」と言いたい。そして、自分だけするのではなくて、・・・この赦しの行使をコリントの人々に勧めているわけです。

・・・私たちが、「あの人を赦すわ」「あなたを赦すわ」とか、「大丈夫よ。もう気にしてないからね」とそういう会話がとおりますよね。けどそれは、自分とその人の単なる感情のもつれ。自分の中の単なるモヤモヤ。その人とのちょっと面白くないこと、嫌な思い。それを「払拭しますよ」という、そんなたわいもない人と人とのやりとりにしてしまおうと思えば、いくらでもできますが、『神の像』と『神の似姿』の人は、それじゃもったいないんです。もっとできるんです。「大丈夫だよ。」「我々は大丈夫だよ。」と、それからもっと進んで、成就していけるのです。

で 101 ページの一番下の段落を見てください。

あなたの『心の想念』は、その場の雰囲気と相手に対する権威を持っています。・・・あなたの心持ちは、あなたが黙っていても、その場の空気と周りにいる人に対する空気を操作する力を持っていると言うことです。

もしあなたが兄弟を憎むなら、その赦さぬ思いが相手を束縛することになるでしょう。しかし、もし赦すなら、まして、相手に赦しを告白するなら、あなたの権威で相手を自由にすることができます。人がその場に『存在する』ということは、周囲の人々や環境のすべてに充分『関係している』ということなのです。あなたがその場に存在しているのなら、あなたの霊の内にあるものが何であれ、人々と環境に対して、あなたの霊が行使されているわけです。私たちの霊には『王権』(神の像と神の似姿)があるのです。御国の関係において、その人の霊の性質が現れてしまうのです。

102 ページ

かつては、集会が恵まれたものになるかならないかは、司会者や説教者の良し悪しによるかのように巷で話されたものでした。しかし、そのような時代も過ぎ去ろうとしています。集会に集っている各々が、たとえ一言も発することがなくても、各々がどういう霊を放っているかによって、集会は大きく変化してしまうのです。もちろん集会を左右する霊的権威は、司会者や説教者にあつたとしても、メンバー全員の影響力がますます大きくなってきています。ナザレで行われた集会では、集まった人々の放つ不信仰によって、イエスは力ある業ができなかったのです。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

私たちは、自分は集会の末席を汚しているだけなどと考えることは、やめなければなりません。存在していること自体が奉仕なのです。何もしていなくても、語たなくても、そこにあなたがいること、それがキリストのからだにどんなに力を与えているかを深く知る時代に至っているのです。

活発に動いたり、語ったりする奉仕がどうしても注目されてしまいます。しかし、キリストの奉仕の原点は、『わたしはある』(出エジプト 3:14)と言われた御父の存在のミニストリーであったことを忘れてはならないのです。

『あるもの』、その内側に『あるもの』が必ず表に現されていくのです。自分たちに『与えられている権威』で、私たちは周りの人々に何を解き放っているのでしょうか。・・・「私たちの内に、『神の像』があるのです。だから「私は何もしないで黙っています」と言って口を塞いだとしても、あなたは内に隠したものが現れてきます。それは隠されたままであることはなく、必ず現れ明らかにされるのです。

次の御言葉は最後の審判の一コマではありません。[・・・パリサイ人のバン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことで。おおいかぶされているもので、現されないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。ですから、あなたが暗闇で言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。](ルカ 12:1-3)

聖書の中で、『キリストの現れ』という言葉が新約で何度も使われています。それは文字通り、姿どおり、理料的に『キリストが現れる』という『局地の姿』を言っている言葉です。でも、それもありますけれど、その『現れ』と同時に、私たちの内側からキリストの体である聖徒たち、一人一人の共同体。集合人格の中から、『キリストが現れる』という『現れ』という言葉もあるんです。ですから、両方使われているのです。

だから、キリストの現れ、私の現れ、あなたの現れ。彼の現れ、彼女の現れ、私たちの現れ。キリストは『神の像』と『神の似姿』そのものですから、キリストと相互内在である私たちも当然、現れていくのです。

あなたが恥ずかしがり屋で、いくら隠そうとしても、「私、隅っこでいいわ」と言っても、無理です。あなたの内に『神の像』があるから、あなたから現れてくるのです。『栄光の姿』にですよ。だから、どうぞ、「キングダムセミナーのグループの末席を私は汚しています」なんて言わないでください。あなたの存在が尊くて、あなたの現れを知りたい。私は知りたい。まだ、対面して顔を合わせたことのない方がいっぱいいるでしょう。でも、私の声だけは、LINE や録音で聞いてる人が、いっぱいいるらしいですよ。それって、私にもったいないというか、かわいそうだと思いますか？だからどうぞ、一度、この場に来てみてください。

その対面の『息遣い』、あなたの『息遣い』が知りたい。あなたの『現れ』のリアリティを知りたいのです。大いに知りたいのです。今、そう言われても無理だったとしても、このセミナーが終わって 5 年 10 年 20 年 30 年 40 年経った後に、あなたがどんな『現れ』になるか。それを我々は一緒に楽しみにしようではありませんか。皆さんの、我々一人一人の『在る』だけでいい、その存在のミニストリーを祝福します。それを縛り、隠そうとしたり、覆いかぶせたりするようなことがないように。そんなものを破り捨てます。あなたのいる家庭、地域、職場、学校、すべてのところで、あなたの存在のミニストリーは特に現れていくのです。すでにもう、現れているのです。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

それを調節している調節弁はどこにあるのですか？ それがあなたの内側の『決心』です。認めること。赦すこと。祝福すること。解き放つことです。

その権威の中に、悪霊どもは、手出しができません。そこに悪霊だの、何々の霊だのと言って、イライラ、ビクビクする必要がない。むしろ、その存在のミニストリーを発揮して、結ばれ合わない、その隙間にこそ、悪霊が楔を打ち込んでくる。だから、「イエス様助けてください」なんて言わないで、私たちのできる『神の像』を存分に使い合っていけば、我々は勝利なんです。

ここは、東京のお茶の水ですけど、皆さん、いつも会場に来られている方は少ないですよ。ラインや録音でいつでも聞けるのにね。この暑いのに、私も参加者の一人だったら、そうするかもしれない。わかりますよ。けどね、それはそれで、我々のチョイスですけど。でも犠牲を払って労力尽くして我々は互いに出会う時、もうそこに存在のミニストリーが、そのまま生きる。私達はね、そこにきっちり土台を置きましょう。

だから遠くから、関西からもたびたび、この場に来てくださる方が何人もいますよ。毎回は来られないでしょうけどねえ。関西とまで言わないけれども、関東圏でも何時間もかかるという方もこちらにいらっしやっています。今日も一人、見えています。その存在のミニストリーを祝福します。はい。それを土台にしていますからね。遠く離れたところで声だけ聞いてもらっている。また録音を聞いてもらっているというそんな、か細い軽い思いで私、いませんから。本当に、その存在のミニストリーと集合人格は、地理的な距離、あるいは物理的な壁、そんなものに影響されませんから。これは確かなこと。実際に面と向かって出会う『息遣い』を交わしながら存在している、そのように思っていますから。このセミナーを、その『意気込み』と『決心』でやっていますから。だから「対面で、あるいはラインで、録音で、お会いすることを楽しみにしています」と、私、いつも、皆さんに祝福を込めて言っています。

はい、では続き、102 ページの一番下の 2 行目から、読みます。

それだから、真に『王権』に基づいた『関係に生きよう』と思えば、私たち互いの間で不真実なものはないか常に見て、不信の種をことごとく真実なものに変えていかなければなりません。自分の思いに『王権』があるゆえに、積極的に互いに『王権』として赦し合うことは、キリストのからだを完全なものにします。次にあげるみことばを、信者にある『王権』ゆえに命じられているものとして黙想してください。

[また立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があったら、赦してあげなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいます](マルコ 11:25)

・・・私たちの内で、王権を使った。そうすれば、その『王権を使う』という我々の内の霊の弦は震えて、天の父の内なる霊的な弦が震えてシンクロさせるんです。チューニング（調音）しているのです。そしたらピーっと震えて、我々は 1 つレベルに前進していくことができるのです。すごいでしょ。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

マルコ 11 章 22 の[神の信仰を持って]との命令に続いて、神の信仰の内容ともいえる 三つの事柄の 一つがこれです。25 節の人を『赦す』ということが神の持っている“信仰を使う”ことの 1 つなのです。

[しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。(厳しい言葉だね。) 兄弟に向かって「能なし」と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、「ばか者」と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい](マタイ 5:22-24)

・・・これをしないで、捧げ物や礼拝だとかなんとかと言って、形を整えることにより先進的になっていくことは、自分の『王権を使う』ということのセンスを鈍らせていくことになります。それは自分で自分を偽ることになるからです。

神の鼻と自分の鼻とを合わせて、息を吹き入れられたその呼吸で、生きなければいけません。そしたら、こういうことが、神の国を左右する、私たちに与えられた『王権の行使』であることに、気がつき始めてきます。自分の王権を用いて、人を恨んだり、赦さないということが、どれほどの人を、縛り呪うことになるか。私たちはそれほどの存在なのです。私一人ぐらいが怒ったって、恨んだって、憎んだって何にも変わらないよと、そういうものではないのです。

はい 104 ページの中程を見てください。コロサイ 3 章 12-13 節も深い黙想の中に導いてくれます。2:17:36.84

[それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあったとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい]

どうして主は、私たちが赦すことができたのでしょうか。過去の罪だけではなく、私たちの日常生活において、やはり失敗や、愚かな言動で主を悲しませることがあります。でも、どうして主は私たちに対して常に深い同情心、慈愛を持ち、謙遜、柔和、寛容であることができるのでしょうか。「それは、主が神だからできた。」という答えで片付けられる問いではありません。

それはキリストご自身の中で、『私たち一人一人が何であるのか』という啓示が、主の中に確立しているからなのです。だから、この『赦しの王権』の行使は、『互いについての啓示を得るという王権』の行使と深い関わりがあるわけです。

私たちが御国でどんなにユニークで、貴重な一人一人であるかを知っておられるがゆえに、主は、私たちに至らない所があっても、不満を抱くことなく、喜びを持って忍ぶことがおできになるのです。希望を持つことがおできになるんです。

5C20 回目キングダムセミナー20260808

・・・だから、主の目線は「ああ、昨日もあんたできなかった。」「先月もダメだ。」「去年もダメじゃん。」と言って、後ろがえりの神様の目線ではない。今日できなくても、「あなたと今、呼吸を合わせているから、明日に向かうのではないか。」という、その主の呼吸が私たちを、いつまでも包接できるんです。もうちょっと進みます。

105 ページの 2 段目。

私たちが現在人を赦せなくなったり、不満を抱いたりする場合、その人から危害を加えられたり、非難中傷されたりといったことが原因である場合は、そんなに日常的ではありません。むしろ相手が自分の期待どおりに動いてくれないから苛立ち、不満を抱き始めるのです。相手に対するこちら側の啓示の中で、肉や魂的な願望がミックスされているからです。

純粹に天の父からの兄弟に対する啓示に近づいているなら、彼がこちらの意に反したことを行なったとしても、こちらの反応は違ってきます。彼のために忍び、深い同情心、慈愛を持ち、謙遜、柔和、寛容であることが苦痛でなくなるのです。この状態で祈る『とりなし』に力があるわけです。・・・包接して、その人を赦し認め、祝福しようではありませんか。

このように『赦しの力の行使』は、『お互いの啓示を得るという王権の行使』にかかっています。ということは、やはりその人が見ている『神の国』の広さ深さにかかっているのです。

はい。ここをずっと、ずっと読みたいんですけど、この辺で本を読むところは、止めておきましょう。

はい、今日は『神の像』と『神の似姿』、今の私たちの『姿』に追っていきました。皆さんの方から、コメントがありますか？感想がありますか？質問がありますか？質問と言われても、もうその時間があまりないんですけど。はい、大丈夫でしょうか。

それでは信仰の歌を 1 つ歌って終わりにします。

キリストの集合人格と王権の歌

13 番、あなたの手で

我々はこの信仰でこの夏、解き放っていきましょう。互いに我々は深いところでつながっています。一人ではありません。必ずつながっています。それは主と主イエスと常に御霊と。そして周りの兄弟姉妹たちと。そして私たちは身近にいるすべての人を包接します。包み込みます。御国を来たらせたまえ、私たちが御国を来たさせます。ありがとうございました。